

隊員たちの思いを引き継ぎ「平和」を未来に…。

戦争への道

第1次世界大戦以後、急激な発展を遂げた日本は、西欧諸国に追いつけ追い越せと、市場や資源を求めて大陸進出をめざし始める。これにより日本はアメリカやイギリスなどと対立するようになり、やがて世界大戦へと発展していった。



日本によるハワイ奇襲攻撃
提供:「写真記録日中戦争」
1995年ほるぶ出版



小沢町(現飯島町)での防空演習



学徒出陣 提供:朝日新聞社

回天誕生

1943年(S18)夏、日本の敗退が続く中、二人の青年士官が戦局を逆転するには体当たりによる特攻作戦しかない、と人間魚雷を構想。その後、戦局はさらに悪化し、海軍省はついに試作兵器を完成させ、1944年(S19)年8月、正式兵器として採用された。祖国を守りたいとの一心から、特攻兵器「回天」は誕生したのである。そして同年9月、魚雷発射試験施設のあったここ大津島に回天基地が開設され、全国から多くの若者たちが集まってきた。



8期士官講習員



大津島回天基地(終戦直後)

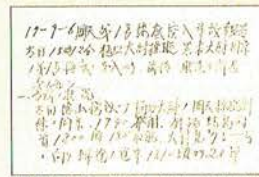


黒木大尉

仁科中尉



回天1型2号的



訓練中殉職した黒木大尉の事故報告

さらば祖国

出撃の朝。隊員たちは、多くの戦友に見送られながら棧橋へと歩いていく。隊員たちは湾内に停泊している潜水艦に乗り込んだ。「出港」の合図があがり、回天を搭載した潜水艦はわずかに白煙を残し、音もなく進んでいった。



隊員へ別れを告げ棧橋へ



“帽振れ”に送られて出撃する潜水艦



遺書



艦上より訣別の礼



戦友に別れを告げる隊員

■出撃記録

隊名	搭載潜水艦	出撃地名	出撃年月日	作戦海域
菊水隊	イ36(イ47)	大津島	19.11.8	ウルシー・バロオ方面
菊水隊	イ37(未帰還)	大津島	19.11.8	ウルシー・バロオ方面
金剛隊	イ56	大津島	19.12.21	自戦変態により帰投
金剛隊	イ47	大津島	19.12.25	ホーランドア方面
金剛隊	イ36(イ53・イ58)	大津島	19.12.30	ウルシー・バロオ方面
金剛隊	イ48(未帰還)	大津島	20.1.9	ウルシー
千早隊	イ368(未帰還)	大津島	20.2.20	硫黄島方面
千早隊	イ370(未帰還)	光	20.2.20	硫黄島方面
千早隊	イ44	大津島	20.2.22	自戦変態により帰投
神武隊	イ58	光	20.3.1	自戦変態により帰投
神武隊	イ36	大津島	20.3.2	自戦変態により帰投
多々良隊	イ47	光	20.3.29	自戦変態により帰投
多々良隊	イ56(未帰還)	光	20.3.31	沖縄方面
多々良隊	イ58	光	20.3.31	自戦変態により帰投
多々良隊	イ44(未帰還)	大津島	20.4.3	沖縄方面
大武隊	イ47	光	20.4.20	ウルシー・沖縄中間
大武隊	イ36	光	20.4.22	サイパン・沖縄中間
飯武隊	イ367	大津島	20.5.5	沖縄方面
轟隊	イ361(未帰還)	光	20.5.23	沖縄方面
轟隊	イ363	光	20.5.28	自戦変態により帰投
轟隊	イ36	大津島	20.6.1	マリアナ
轟隊	イ165(未帰還)	光	20.6.15	マリアナ
多聞隊	イ53	大津島	20.7.14	西太平洋上
多聞隊	イ58	平牛	20.7.18	西太平洋上
多聞隊	イ47	大津島	20.7.19	自戦変態により帰投
多聞隊	イ367	大津島	20.7.19	自戦変態により帰投
多聞隊	イ366	光	20.8.1	西太平洋上
多聞隊	イ363	光	20.8.8	損傷により帰投
神州隊	イ150	平牛	20.8.16	8月18日帰投

平和への道

太平洋戦争後、世界は平和への道を歩み始めた。しかし、世界には今もなお、たくさんの問題が残されている。今を生きる私たちは、地球上に起きるさまざまな問題について一人ひとりが考えて行動するとともに、平和への努力を続けてゆかなければならない。



1945年(S20)10.国際連合発足 提供:朝日新聞

